

報告事項 2

●平成28年度事業計画（平成28年4月1日～平成29年3月31日）

平成28年度は、「公益社団法人 日本写真協会」も6年目に入り、定款に定める「写真の普及・振興に関する事業を行い、文化の発展と国際交流の増進に寄与する」という設立目的に基づき、写真・映像文化の振興・普及を目的に従来からの事業を継続してまいります。会員だけでなく不特定多数の者の利益の増進に寄与しなければならない公益法人としての意識を強く持って、その内容については適時見直しを行いつつ以下の事業を実施していきます。

A. 公益事業

1. 日本の写真文化に顕著な功績のあった国内外の個人及び団体の顕彰（「日本写真協会賞」）

【担当：表彰委員会】

「平成28年度日本写真協会賞」は今年65回目を迎え、2月18日（木）に「選考会」を開催し、各賞受賞者を内定しました。

☆作家賞	畠山直哉、山岸 伸
☆新人賞	新井 卓、初沢亜利
☆国際賞	崔仁辰と『韓国写真史 1631-1945』翻訳チーム
☆功労賞	桑原史成、(株)写真弘社（代表・柳澤卓司）、広田尚敬
☆学芸賞	小原真史

- (1) 対外発表 : 4月13日（水）カメラ記者クラブで対外正式発表を行い、全国紙、一般雑誌等に資料を配布して記事掲載を依頼すると共に、HPに掲載し広く不特定多数の一般市民に周知徹底を図ります。
- (2) 表彰式 : 6月1日（水）17:30～19:00 東京・三田の笹川記念会館で、受賞内容をスライド映写で紹介し、受賞者に対し表彰状・賞杯の授与を実施いたします。
- (3) 受賞祝賀会 : 6月1日（水）19:00～20:20 表彰式終了後、同会場内レストランに会場を移し受賞者をお祝いする会を開催します。
- (4) 受賞作品展覧会 : 5月27日（金）～6月2日（木）に、六本木の富士フィルムフォトサロン東京で開催し、会員以外にも不特定多数の写真愛好者に鑑賞してもらい受賞者の受賞内容を確認してもらい、写真文化の普及・振興に貢献します。
- (5) 平成29年度の選考
恣意的な選考に陥らないよう、本年同様、11月～12月に広く写真界全体から、会員及び委嘱している指名推薦者（ノミネーター）による候補者のリストアップを行い、平成29年2月に会長が委嘱する選考委員5名による選考会を開催して受賞者を決定します。

2. 写真に関する国内の情報・資料の収集及び「日本写真年報」の編集発行

【担当：出版広報委員会】

「不特定多数の利益の増進に寄与する公益事業」として認定された「日本写真年報」は、さらに公益事業に適合すべく2013年度版より、「日本写真年鑑」と題し約2倍にページを増やし、従来の写真業界の年報としての機能にあわせ、年間を通じた写真界の幅広い情報を掲載しております。2016年版も一般読者に興味を持っていただけるような話題を盛り込み、前年の写真活動状況をつぶさに記録し、老若男女すべての読者にとって、写真を通じて新たな発見が得られる一冊になるよう編集して発行いたします。

配布・頒布につきましては、従来から会員の皆様にお届けすると共に、関心の高い一般市民写真愛好者の為に写真美術館・ギャラリー・図書館・大使館等の公的機関及び報道機関に無料配布してきましたが、更に、会員以外の不特定多数の写真愛好者なら誰でもが入手できるように、HPに掲載すると共に、いくつかの取り扱い場所や「東京写真月間」事業の写真展会場で頒布告知チラシを配布してその発行を広く告知します。

3. 子供達中心に写真映像の原理と楽しみ方を理解させる写真体験教室の実施

【担当：写真・映像教育推進委員会】

当協会の目的に照らし、将来を担う子供たちに対する写真文化の教育が肝要であるとの認識から、主として小学生を対象に写真体験教室を平成17年度から実施。写真関連の授業内容がない現在の授業体制の中で、熱心な教師からの要望に応え正規の授業にも取り上げられるようになりました。

当初、銀塩方式の「手作りピンホールカメラ写真体験教室」では、子供たちが普段できない暗室体験を通じて写真の原理を理解してもらうことが大きな目的でしたが、平成21年度よりスタートした「デジタル写真教室」では、写真の原理は勿論ですが、写真の持つ多様な力の中から、自分の気持ちを表すという写真の自己表現力・コミュニケーション力を如何に引き出すかが重要になります。

平成28年度も、各学校・教師等の要望を基に、銀塩写真体験教室を今までどおり実施していくと共にデジタル写真体験教室も積極的に展開していきます。

また、写真体験教室の中では、断りもなく他人の顔を写さないとか、花壇等に勝手に踏み込まない等の撮影マナーや、著作権、肖像権等の法的権利についてもその重要性を教えていきます。☆28年度実施目標：33ヶ所1,300名

4. 国内外の写真文化を紹介する国際交流活動

【担当：国際交流委員会・写真月間委員会】

(1) 国際展「アジアの写真家たちモンゴル」

国際展は日本人には非常に馴染み深いモンゴルを取り上げます。同国は広大な草原地帯の国というイメージが強いですが、4,500mを超える山々を持つアルタイ山脈や、深い針葉樹林を有する変化ある国土を持っています。この度の写真展では17名の写真家が捉えた、モンゴルの人々の暮らしの中に繰り広げられる伝統行事や生活様式等を紹介します。期間中に数名の写真家を招聘し、写真関係者との懇親の場を設ける他、ギャラリートークショーを行い、これらの交流を通じて両国の相互理解を深めます。特別企画展として昨年開催した作品の中から選別してミャンマー展を開催。

(2) 日本写真協会賞新人賞受賞作品を海外で紹介

平成28年度は「日本写真協会賞新人賞受賞作品展(Lookinng at Borders)」のキューバ、ロシアでの巡回を計画。展示作品は、2013年から2015年までの3年間に日本写真協会賞新人賞を受賞した日本人の写真家の作品60点(A2サイズ)を展示します。

(3) 全ロシア日本文化フェスティバル HINODE2016 に協力

モスクワのモスクヴィッチ文化センターで開催される全ロシア日本文化フェスティバル(4月23日・24日)に当協会のフォトグループいぶき写真展作品「2016 四季のいぶき」を出展。

(4) 海外写真事情を紹介する講演会、スライドレクチャーの開催

来日写真家・写真関係者による講演会/スライドレクチャーを計画いたします。

(5) 文化庁の派遣及び招聘 海外写真研修生の推薦

平成28年度も、文化庁の推薦団体委嘱に応え、同庁の派遣及び招聘海外写真研修生の応募窓口として推薦実務を実施いたします。

5. 「写真の日」を中心に国内外の写真展を集中展開する写真月間の開催

【担当：写真月間委員会】

(1) 「東京写真月間2016」

後援：環境省、外務省、文化庁、東京都、モンゴル国大使館

① 国内展「人と鉄路」心をつなぐみち 5月～6月

国内展は「人と鉄路：心をつなぐ道」と題して、日本列島の隅々まで張りめぐらされ、その周辺の地域住民の生活の足として、また、伝統文化の繋ぎ手として、人々の日常生活を支えてきた鉄道について、人の暮らしにおいて鉄道が如何に大切な役割をはたして来たかを各写真家たちの独自の視点を通して捉えた作品を紹介します。また特別展として1990年の旧国鉄時代から現在まで行わ

れている「青春 18 きっぷポスター紀行」(キヤノンオープンギャラリー)に新たに写真を追加した写真展を行います。

写真展の内容は、宇井眞紀子「眠る線路」(コニカミノルタプラザ)、矢野直美「人あかりの路」(オリンパスギャラリー東京)、米屋こうじ「ときのしずく」(エプサイト)、村上悠太「つなぐ旅」(キヤノンオープンギャラリー)。その他、巡回展を東川町他で開催予定。

② 国際展「アジアの写真家たちモンゴル」5月～6月

「アジアの写真家たち」は、日本人には非常に馴染み深いモンゴルを取り上げます。

「Refreshing Photographers in Mongolia Now」と題して、モンゴルの17名の写真家による同国の文化、風俗、人々の暮らしを捉えた写真展を新宿ニコンサロン、キヤノンオープンギャラリー、ソニーイメージングギャラリー、PlaceMで開催。また、特別企画展として「アジアの写真家たちミャンマー Bright and Religious country」を築地のふげん社で開催します。

③ 1000人の写真展 わたしのこの一枚」 新宿ヒルトピアアートスクエアで開催 6月

④ 「写真の日」記念写真展・みどりのiプラザ、その後巡回展を全国8カ所で開催
外務大臣賞、環境大臣賞、優秀賞、レディース賞、ヤング賞、協賛会社賞約50社、入選巡回展：「写真の町」東川町文化ギャラリー、富士フォトギャラリー新潟
福島市振興公社福島テルサ、ニコンサロンbis大阪、HCLフォトギャラリー名古屋、小諸市立高原美術館、金沢21世紀美術館市民ギャラリー、九州産業大学美術館

⑤ 「見つけた！撮った！ワンダーランド」：「こどもの目線」写真展、Gサミット2016

共催：(公財)東京都公園協会、読売新聞東京本社、NPO法人フォトカルチャー倶楽部

B. 共益事業

1. 会員に対し、会の動向や写真界の動きを知らせる会報の発行 【担当：出版広報委員会】

公益社団法人の相互扶助等事業として、会員の皆様に対しては、会の動向や写真界の最近の動きをお知らせする為、従来通り年4回 5月、8月、11月、2月に会報を発行いたします。内容は基本的に変わりませんが、事務局からの一方通行だけではなく、「会員のひろば」の欄も設けていますので、会員の声を積極的に拾っていきます。

2. 日本写真協会賞受賞祝賀会 兼 叙勲・褒章受章祝賀会 兼 東京写真月間レセプションの開催 【担当：総務委員会】

平成28年度は、「6月1日写真の日」事業として6月1日の日本写真協会賞表彰式後、笹川記念会館にて「日本写真協会賞受賞祝賀会」兼「叙勲・褒章受章祝賀会」兼「東京写真月間レセプション」を開催します。

C. 法人運営事業

1. 新公益法人制度に則った協会運営 【担当：総務委員会】【担当：コンプライアンス委員会】

(1) 本年度の活動経過は、次回理事会で報告いたしますが、公益法人には、「不特定多数の利益の増進に寄与する」ことが強く求められています。従来から、当協会の活動内容が会員のためだけでなかったことは明らかですが、今後は従来にも増して一般市民写真愛好家の存在を念頭に置き、法令を遵守し、規程を整備して自己統制の体制をしっかりと築き、公正、公平、公開を旨とした運営を心がけていきます。

(2) ホームページの充実と積極的活用

協会諸事業の活動内容をその都度タイムリーに更新し、内容充実を図っていきます。

(3) 会員証の更新

平成28年4月に会員証(顔写真入、2021年4月期限)を全員分更新いたします。

以上